

# 芳賀赤十字病院だより 9 Number

発行責任者／岡田 真樹 編集／芳賀赤十字病院 広報編集事務局 社会課 栃木県真岡市台町2461

## この笑顔を守るために

生まれてきてくれて  
ありがとう!



### 自然なお産を大切に

全ての母と子が安全で  
幸せな出産ができるように、  
医師、助産師、看護師  
その他のスタッフが  
日々努力しています



### 子育てサポート

2週間健診、おっぱい外来等で産後  
の子育てをしっかりとサポートしてい  
ます。24時間、助産師が対応する専  
用電話があるので、小さな不安もそ  
の場で相談することができます。



2週間健診



電話相談

当院では、母乳育児を積極的に支援するために、産科・小児科のスタッフが合同で  
国際ラクテーション・コンサルタントの母乳育児支援ガイド基礎コースを受講しています。

### 限りある医療資源を有効に活用しましょう

#### 救急車の搬送数の推移

平成 21 年度	4 月	5 月	6 月
台 数	268 台	277 台	271 台

当院では、数少ない医師が2次救急に専念するため、夜間・休日の1  
次救急（頭が痛い・熱が出た・気持ちが悪くなるなど）の症状の比較的  
軽い患者様においては、かかりつけ医や芳賀急患センターをまず受診  
されるようお願い申し上げます。

# 放射線科

先端技術を駆使し  
地域医療に貢献しています



放射線科には常勤放射線科医 1 名、非常勤医 3 名、診療放射線技師 10 名、受付係 1 名が所属しています。

主な仕事の内容は放射線機器を用いての身体の画像情報の提供です。二次救急病院として地域医療に貢献できるように先端技術を常に習得し実施しています。

放射線機器は大型で、管理区域の指定などがあり見た目は怖そうですが、スタッフは極めて柔和なので心配せずに安心して検査を受けてください。



放射線科専門医  
中嶋 紀子 医師

CT、MRI などのあらゆる画像を各科医師の依頼により読影し、所見を作成します。

## CT 室

コンピュータトモグラフィという名のとおり X 線で撮影した画像を 3 D 画像にしたり、断層撮影画像を作成できます。



## MRI 室

磁気ので断層撮影を作成します。高磁場の中に入るので金属は持ち込めません。

## 乳腺撮影室

マンモグラフィを撮影します。女性スタッフが行なっています。



## 血管撮影室

アンギオグラフィ撮影室です。体内の動脈や静脈など血管の検査をします。



## 透視撮影室

X 線透視を見ながら体内の各部位を撮影します。

## 放射線科受付

放射線科各撮影室の総合受付です。放射線科の検査時はかならずお越しください。



## 一般撮影室

胸部、腹部、骨一般の単純撮影をします。撮影時は金属のない服装をお願いします。



# 北館二階病棟



## 真心込めた 温かい看護を

北館3階病棟はベッド数35床の内科病棟です。スタッフは看護師25人・クラーク1人・看護補助者3人が勤務して11人の医師は、3つの内科病棟を毎日、忙しく駆け回っています。病棟は化学療法や緩和ケアを中心に色々な内科の病気を持った患者様に対してプライマリナーシング方式を取り入れ1対1の看護の提供を目指しています！！

私たちの行っている看護の一部をご紹介します。



北館3階  
病棟スタッフ



デイルームにて  
みんなで楽しく昼食

## 急変時対応

### シュミレーション

安全・安心の医療と看護を提供するために医師の協力で実践しながらの緊迫した訓練をしています。



## 食前の

### アイスマッサージ

患者さまの「食べたい」を大切に機能回復を。



## 誕生日を迎えられた 患者様と記念の1枚

入院期間に誕生日を迎えられた時には手作りカードでお祝いさせていただいています。



院長  
岡田 真樹

## 安全で質の高い医療を 提供するために

皆様こんにちは！ 院長の岡田です。皆様のお手元にこの広報が届くのは8月過ぎになるかと思いますが、今年度初めてのご挨拶になりますので、この4月からのことをお知らせいたします。

常勤の医師が47名になりました（7月1日現在）。47名という数は平成15年の常勤医数と同じ数です。やっと以前の医師数に戻ったと言えます。医師が増えた診療科についてご紹介します。

これまでは非常勤体制であった消化器内科の医師が2名常勤になりました。胃カメラなどの内視鏡検査や肝疾患の診療能力がグッとアップしました。ちなみに経鼻胃内視鏡（鼻からの胃カメラ）を近々導入します。

整形外科は1名増員となり、全部で5名となりました。外来の混雑が少しでも解消されればと思います。

産婦人科も1名増員となり5名体制になりました。当院は地域周産期母子医療センターとしてハイリスク分娩に対応しておりますが、普通のお産もやっています。どうぞ当院で安心して赤ちゃんを産んで下さい。

麻酔科も1名増え3名体制です。最近は当院で手術を受ける患者さんが増え手術件数が年々増加しておりますので、常勤医の他に毎日非常勤の麻酔科医に来てもらい、安全な手術を提供しております。

当院は芳賀地区で唯一の公的病院として、今後も2次救急を含めて安全で質の高い医療を提供していきたいと思っております。

新型インフルエンザにも触れておきます。当院は感染症指定医療機関ではありませんので、これまで新型インフルエンザの患者さんは入院しておりません。しかし今後の大流行の可能性を考え、すでに対応マニュアルを整備し、また講習会や対応訓練などを実施するなど準備しております。

皆様へのお願いです。今後も県や市・町からの指示に従い、冷静な対応をお願いいたします。もし発熱などで当院を受診される場合には、必ずマスク着用で来院していただきませうようお願い申し上げます。



副院長  
稲沢 正士

## 就任のごあいさつ

4月1日付で副院長に就任しました稲沢と申します。那須町の生まれです。高校時代の最大の恩師が真岡の出身であり、栃木県には私が大学で教育を受けるため奨学金制度を利用させてもらったりし、

これらの恩返しのためにも栃木県のこの地で働けるのを大変光栄に思っています。このところ医療は厳しい変化の波にさらされています。これまでは患者の診察というところに集中して何とかこなっていた経営が、今では病院は機能を

果たす組織体としての安全、急性疾患患者の診療提供や入院などの連携活動、スピードや密度を上げた部門を超えた協力による具体的な効果、経済性の確立も求められています。わたくしに対しましては岡田院長から医療の質に関係の深い医療安全推進室や若い医療従事者に選ばれる要因になる教育研修推進室を中心に部門を超えた組織横断的な行動をするようにとの要望です。年齢ボケが来ていますが限られた期間で職員の皆様と一緒に行動し努力する所存です。どうぞよろしく願いいたします。

## アラ還男の独り言



事務部長  
瀧田 晴夫

アラ還世代は、生を受けるときの競争ほどではないにしても、節目々で競争だった。また、「団塊の世代」と言われるように極端に人口が多いため、それなりの影響力もあった（これから、高齢化率の上昇に貢献する？）と思う。

ちなみに、「アラ還」とは、「アラウンド還暦（around 還暦）」の略。そもそもは30歳前後の女性を意味した「アラサー（around 30）」の派生語「アラフォー」の流れの中で誕生した言葉。

さて、自分は本質的に短気であるが、近頃、やけに怒りっぽくなったと感じる。人生の半ばを過ぎあせりが生じたせいかな、はたまた、これまでの職業のせいかな。

新しい職場では分からないことだらけなので、いろいろ聞くことが多い。その結果、稀ではあるが無性に腹が立つし、また、異様に感じることもある。

それは、前例踏襲（主義）「なぜそうなのか？」「これまで、こうだった。」。答えになっていないのでは。これまで云々は過去のことであり、それが最良の選択である根拠にはならない。極端な話かもしれないが「前例踏襲では組織が潰れる。」とも。時代が変われば、人々のニーズも変わり、それに伴って制度や対応も変わるもの。その変革に的確に対応できない組織は存続さえ危ぶまれる。

人材育成の観点からも、なぜそうなのか、法令等の根拠に基づく説明が必要と思うが。EBM、EBNとか、今、正にエビデンスはやり。ポストボーイとして勤務している（そんな余裕はないと思うが）なら別だが、職員である以上、所管業務については誰よりも詳しくなければならない。また、効果や効率の工夫があって然るべき。

現在、一部に景気の下げ止まりとの発表もあるが、雇用情勢などから景気回復とはいえないのでは…。このような中、ビッグ3、リーマン・ブラザーズのような企業があれば、キャッシュバックキャンペーンなどで増収増益の企業もある。この違いはデータ分析や発想の転換などさまざまであるが、少なくとも前例踏襲にとらわれない新発想があるからではないか。

「前例がなければ作ればよい。」と考えるアラ還男は変なのかな・・・

## 地域医療連携課だより

こんにちは、地域医療連携課です。今回は「地域連携パス」についてご紹介いたします。

病院で用いる「パス」とは、入院から退院までの治療計画のことです。病気、検査や手術などの入院目的に添って、ゴールである退院に向かい、1日目の予定、2日目の予定……退院に向かった目標と、計画に沿って日々の治療が標準化されています。一方、「地域連携パス」は、病院の入院期間だけで終了することの出来ない治療やリハビリなどが、退院後も他の病院や地域のかかりつけの先生にリレーされていく、長期にわたる治療やリハビリの計画です。

現在日本で重要視されている4疾患、

がん・脳卒中・急性心筋梗塞・糖尿病のうち、芳賀郡地域では、栃木県のモデル事業として脳卒中の地域連携パスに力を入れています。当院は、地域の基幹病院として、急性期の患者様の治療を行い、病状が安定したらリハビリを行なう病院に転院し、スムーズなリハビリで早期に社会復帰や自宅生活に戻れることを目指します。この地域連携パスを利用して、これまで13名の患者さんが芳賀日赤からリハビリを行なう医療機関に転院いたしました。急性期の治療とリハビリをスムーズに継続し、

皆さん自宅に退院されています。

住み慣れた地域の、目的にあった場所で最善の生活が出来ること、それを守るためにも、「地域連携パス」を上手に取り入れ、今後は脳卒中以外の疾患でも利用できるよう、地域全体で前進できていければと思います。



私たちが誇りにしている益子町は、行政と町民が協働の町づくりを目指して歴史と文化の町を世界に発信しております。益子町奉仕団は、50名で構成されており、主たる活動を紹介させていただきますと次のようなものがあります。

日赤ボランティアは、毎月1回月曜日に訪問して医療衛生材料の準備作業を実施しており、団員が集めた古着などもお届けして活用していただいています。その他の活動としては、町内での奉仕活動があり、健康福祉まつりへの参加、町産業祭りでの街頭募金（日赤栃木県支部にお届け）災害ボランティアの研修、隔年毎に行われる防災訓練など、訓練時は奉仕団が炊き出しの要請を受けて実施しておりますが、災害が無い事を願っております。また、私たち独自の事業もあります。1回の視察研修（昨年は水戸日赤乳児院）健康福祉に関する講習会、救急救命法、団員の親睦を図りながら研鑽を積んでおります。

私たちは、奉仕団の信条にもあるように、陰ながらの人道的支援を活動の目的として、より良い活動ができますように日々努めて参りたいと思います。



益子町赤十字奉仕団  
委員長 飯村 今子

私たちは、赤十字の  
サポーターです。

お知らせ

### 「芳賀赤十字まつり」の開催について

地域の皆様に芳賀赤十字病院の機能と赤十字の役割を知っていただく目的で開催いたします。どうぞ足を運んでみて下さい。

日時 平成21年11月21日(土)

時間 10:00～15:00

場所 赤十字コーナー付近(中央館1階)

### 熱中症 を予防しよう!

- 休養や水分の補給を適度に行い、同時に塩分を含んだ水分も補給しましょう。
- 炎天下、車中、暑い室内などでは、子どもや高齢者に十分な注意を払いましょう。



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

芳賀赤十字病院

〒321-4306 栃木県真岡市台町2461 TEL 0285-82-2195(代) FAX 0285-84-3332 <http://www.haga.jrc.or.jp/>

編集協力/榊山印刷